



日本ヒューマンヘルスケア学会 特別講演

世界のトップ学術論文から疫学的に読み解く
COVID-19 (SARS-2) の自然介入による効果検証

講演者：西川まり子

日本ヒューマンヘルスケア学会 理事長／編集長

人間環境大学大学院看護学研究科 教授

東京大学大学院医学部医学系研究科 国際地域保健教室 Visiting Scientist

日時：2020年9月26日(土) 12:00-12:30 (Web上) 総会前

参加費：会員無料

内容：この講演をお聞きになった後、皆様は、これまでの自粛の効果検証と価値のあるデータの所在を学ぶことができます。

2019年11月頃から新聞での掲載が始まったCOVID-19 (SARS-2) は、まるでビリヤードの1つの球が、次々にあたるように感染が拡大し、人々を恐怖に陥れています。これは100年前の1918年~1920年のスペイン風邪の大流行時と同じで、世界と共に日本でも、まずマスクとベッド不足が騒がれました。感染予防に学校が閉鎖され、続いて出勤の制限、イベント自粛やレストランの休業、ロックダウン(自宅にとどまり、国内外への移動制限)、さらに世界的には公共交通機関の閉鎖もなされています。その効果はどのようになっているのでしょうか？この特別講演では、世界トップの学術論文から厳選して、これらの論文を読み解き、COVID-19 (SARS-2) に対して、ロックダウンという自然介入による効果を世界との比較によって疫学的に検証していきます。それと共に国際的なデータの読み取りサイトに触れます。お忙しい中、お時間のご都合をつけて頂ければ誠にうれしく思います。どうぞ、多くの皆様のご参加をいただけますようお願いしております。

略歴：(学歴) マウント・セント・ビンセント大学(ニューヨーク) 卒業(看護/健康教育)：アメリカ合衆国RNライセンス保持
ニューヨーク大学大学院 国際公衆衛生修了(国際地域保健教育)
ジョンズ・ホプキンス大学大学院 ブルンバーグ公衆衛生(疫学コース修了)

